

事例編

公立図書館と学校図書館との連携

- 事例 1 恵庭市教育委員会
- 事例 2 市立小樽図書館
- 事例 3 北広島市図書館
- 事例 4 訓子府町図書館
- 事例 5 剣淵町 絵本の館
- 事例 6 新ひだか町図書館
- 事例 7 苫前町公民館図書室
- 事例 8 市立名寄図書館
- 事例 9 蘭越町コミュニティプラザ 花一会（平成 31 年 4 月～ 蘭越町花一会図書館）

※ 市町村名の五十音順

恵庭市教育委員会

〒061-1373

恵庭市恵み野西 5 丁目 10-2

Tel 0123-37-2181 (図書館)

Tel 0123-36-1545 (読書推進課)

<http://eniwa-library.jp/>

◆蔵書冊数 294,489 冊 (H30. 4. 1 現在)

◆人 口 69,521 人 (H30. 1. 1 現在)

学校司書配置 実施・小中常勤・専任

(所属：市読書推進課)

学 校 数 小学校 8 校

中学校 5 校

◆学校連携・支援事業

学校司書配置

全小学校 H16～ (※道内初)

全中学校 H18～

・市立図書館と学校図書館の組織一元化 H15～

・恵庭市子ども読書プラン策定 H16～

・学校図書館ステップUPプラン策定 H17～

・学校図書館システムとのオンライン連携及び配本車運行 H19～

・恵庭市小・中学校調べる学習コンクール事業開始 H22～

・高校ブックラインサービス開始 H28～

・子どもの読書推進
ブックスタート事業 H13～
家読推進事業 H21～

・恵庭市人とまちを育む読書条例施行 H25～

・恵庭市読書活動推進計画策定 H26～

「市民の力」に支えられ 数々の取組を実践

平成 16 年度から全小学校への学校司書派遣を開始し、その後も学校支援・連携に係る取組を年々拡充しています。子どもたちの読書活動推進のための取組には、多くのボランティアが関わっています。「読書のまち・恵庭」は、ブックスタートをはじめ、幼稚園や小中学校での様々な読書活動の取組に参加していただいた市民の力が原動力です。

小中学校には、各学校それぞれにボランティア団体がありますが、その活動内容は多岐にわたり、子どもの読書への興味を喚起するため、本の読み聞かせやブックトークを行う団体、本の修理を行う団体、学校図書館を居心地よくするための装飾を行う団体などがあります。

ボランティア団体の形態は、各校で少しずつ状況が違っており、学校の P T A で組織される団体や地域の方が活動している団体を受け入れている学校などもあります。また、活動内容によって複数の団体をもつ学校もあり、各校でそれぞれ特色あるボランティア活動が行われています。

市では、教育委員会や学校図書館活動推進協議会が主催する初心者のためのはじめの一步講座を始め、ペーパサートやパネルシアター、人形劇講座などのボランティア学習ができる機会や^{うちどく}家読事業として絵本作家や小説家、子どもの教育専門家等の講演会を実施し、ボランティア活動を長く持続させるため、各種事業を通じて活動の支援をしています。

「読書のまち」 市民への広がり

10年以上にわたる読書活動推進事業や学校支援事業の取組の成果として、全国学力・学習状況調査において、読書が好きと答える児童生徒の数が増えてきました。平成29年度の調査結果では、「読書が好きですか」の問いに、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた小学生の割合は、83.3%で、全国より9ポイント、全道より8.9ポイント高く、中学生では78.9%と、全国より9ポイント、全道より4.9ポイント高い結果でした。今回の中学校3年生が小学校6年生だった時点（平成26年度）では、77.6%だったので、3年経過して1.3ポイントの上昇が見られました。

また、「読書のまち」が市民に浸透してきたと感じる出来事として、「カントリーサイン」のデザインにまつわるエピソードがあります。

国道・高速道路沿いに設置されているカントリーサインのデザインを変更する際、公募作品の中から市民アンケートで選ばれたのが、恵庭岳のふもとの花畑で本を読む笑顔の女の子の姿が配されたデザインでした。

平成28年から新しいデザインのサインが設置されています。



高校学校図書館に OPAC を設置—高校ブックライン事業

小中学校で培った読書習慣を高校でも続けられるよう、高校での取組も始めました。希望に応じた冊数を、市内の道立高校2校に対し団体貸出し、廊下などに設置。忙しい生徒でも、すきま時間に自由に本を読んでもらえます。

また、高校ブックラインは、学校図書館に市立図書館のOPACを設置し、学校の端末から予約のあった資料を配本するシステムです。平成19年度より小中学校へ火曜日から金曜まで毎日本を届ける配本システムをすでに確立していたので、高校に拡大することになっても経費を最小限に抑えて実施することができました。

ピックアップ!

史跡資料と図書館資料をデジタル化
3Dプリンタで実体化し学校へ

市の史跡「カリンバ遺跡」に関する資料をデジタル化し、インターネット上で公開しています。
学校でのふるさと教育への活用を図るため、3Dプリンタでカリンバ遺跡の土器等を作成し、カリンバ学習セットとして学校図書館に設置しています。

カリンバ遺跡と恵庭市資料デジタルアーカイブ事業



<https://trc-adeac.trc.co.jp/Html/Usr/0123115100/>

市立小樽図書館

〒047-0024

小樽市花園 5 丁目 1-1

Tel 0134-22-7726

Fax 0134-37-0733

<https://otaru.milib.jp/index.html>

◆蔵書冊数 312,366 冊 (H30. 4. 1 現在)

◆人 口 118,948 人 (H30. 1. 1 現在)

学校司書配置 実施・複数校兼任(非常勤)
(所属: 学校教育)

学 校 数 小学校 18 校

中学校 12 校

◆学校連携・支援事業

- ・学校司書配置(地区割り)(H25~)
- ・市立図書館ホームページに、学校支援メニューを掲載
- ・学校図書館の運営相談(除籍資料選定等)
- ・学校図書館クリニック(学校図書館環境改善)
- ・SL(スクールライブラリー)便
小学校向けセット、中学校向けセット、特別貸出(朝読・学級文庫用、調べ学習用、館内展示用)
- ・移動図書館バス
訪問見学、利用案内、利用体験

関係機関が協力して学校図書館の活性化 へ向けた体制作り

平成 26 年度、教育委員会、市立図書館担当者、学校司書をメンバーに学校図書館連携会議を発足。

平成 28 年度には、市内の小中学校の学校図書担当で構成されている学校図書館協議会も連携会議に加わり、年 10 回程度会議を行う中で、学校図書館活動の活性化への情報共有を市の関係機関全体で図っています。また、市立図書館に学校支援担当職員が配置され、新たに採用した学校司書向けの研修や学校司書活動の補佐を開始しました。



新人学校司書研修

前述の学校図書館協議会には、担当者、管理職、学校司書もその一員となっており、読書感想文コンクールの運営を主な活動としています。

市立図書館も学校図書館協議会の活動に積極的に協力し、各種研修や学校図書館運営マニュアルの作成、学校の長期休業期間中に学校クリニックなども行ってきました。

平成 29 年度からは、市立図書館の学校支援メニューとの棲み分けが提案され、学校図書館の運営や授業に関わる部分は協議会が、整備に関わる部分は図書館が担当する方向で進んでいます。



移動図書館車訪問

市立図書館と学校司書が協力して事業を実施

市立図書館の学校支援メニューの、スクールライブラリー便実施にあたり、児童生徒の読書傾向を反映させるために、専用図書の選本に学校司書の意見を取り入れています。

また、同メニューの学校ブックフェスやおはなし会、出前講座などの場でも、学校司書の協力を得て行う場合もあり、市立図書館職員、学校司書それぞれのスキルアップの場にもなっています。



訪問出前講座

学校司書の現状

複数校を担当する形態ですが、学校司書の増員がなされてから2年目のため、実働として今年度は1名が区内3校（小2校、中1校）に関わっています。

小・中で同じ大人が学校司書としていて、中1ギャップに対応できたり、学校間相互貸借で扱える資料が増えるなどのメリットがある一方、移動手段や資料の運搬などの物理面、教職員や、児童生徒と過ごす時間が短くなることによるコミュニケーション面のデメリットもあります。

市立図書館では、学校司書の活動支援のため、学校間相互貸借時の資料運搬を行ったり、各学校図書館担当者との連絡調整を補佐しています。

各学校図書館に設置しているコンピュータでグループウェアを組んでおり、学校司書間の連携に役立っています。

また、学校司書のスキルアップのために、年1回は研修に参加できるように、経費の予算化を行っています。

ピックアップ!

学校司書と、教師・児童生徒・保護者を繋ぐ「たるばとレポート」

毎月発行の学校図書館通信「たるばとレポート」では、学校で行う読書関連事業の告知や、活動状況の報告、おすすめ本の紹介などを掲載し、情報の発信に力を注いでいます。

今後に向けて

市内のある中学校では、学校経営要項に学校図書館計画が定められており、学校全体で学校図書館活動を支える意識づくりがなされています。また、市立図書館との連携も明記されており、活動の幅が広がっています。

学校司書が配置されることで解消できる問題が数多くあります。けれども、それだけで

は解決できない課題もあります。

「学校図書館」への関心を学校全体が持ち、教員と学校司書が共に取り組む意識づくりが必要であると強く感じています。

北広島市図書館

〒061-1121

北広島市中央 6 丁目 2-1

Tel 011-373-7667

Fax 011-373-6664

[https://www.educ.city.kitahiroshima.](https://www.educ.city.kitahiroshima.hokkaido.jp/index.asp)

[hokkaido.jp/index.asp](https://www.educ.city.kitahiroshima.hokkaido.jp/index.asp)

◆蔵書冊数	344,887 冊 (H30. 4. 1 現在)
◆人 口	58,828 人 (H30. 1. 1 現在)
学校司書派遣	実施・複数校兼任 (所属: 業務委託)
学 校 数	小学校 9 校 中学校 7 校

◆学校連携・支援事業

- ・学校図書センターの設置 (H18~)
- ・学校図書館と市図書館のデータベース一元化とネットワークの構築
- ・学校図書の発注と受入れ、予算管理を図書センターが実施
- ・学校図書館の環境整備等の援助
- ・図書館司書による学校巡回 (H26~)
- ・学校における読書活動の推進 (豆次郎・学校図書リクエスト等)

「豆次郎」から始まった公立図書館と学校図書館との連携

小学生の学校での読書活動推進のため、「身近なところで本が読める環境づくり」を趣旨として始まった配本システムが「豆次郎」です。平成 14 年度から段階的にスタートしました。

1 台の木箱に 40 冊の本が入っており、1 か月ごとに学級間、1 年に 3 回学校間を巡回しています。40 冊すべて違うタイトルの本なので、いつでも違う

本が回ってくることになり
ます。現在は、市内全 8 小学校、1 分校の 9 校の各教室に配置され、授業の合間や朝読書などで活用されています。



学校司書の巡回

平成 26 年度から、中学校 6 校に対して、3 名の図書館司書が 1 日 4 時間を原則として、隔週で巡回しています。

各中学校の実情に即し、1 年生を対象にした図書室利用のオリエンテーションの実施、図書委員会活動への参加や、環境整備として、配架場所のレイアウト変更、背ラベルの貼替え、除架作業を行っています。

読書活動推進として、授業、部活動支援を目的に、その時々学校が必要とする資料の貸出や、国語の授業への参加も行っています。

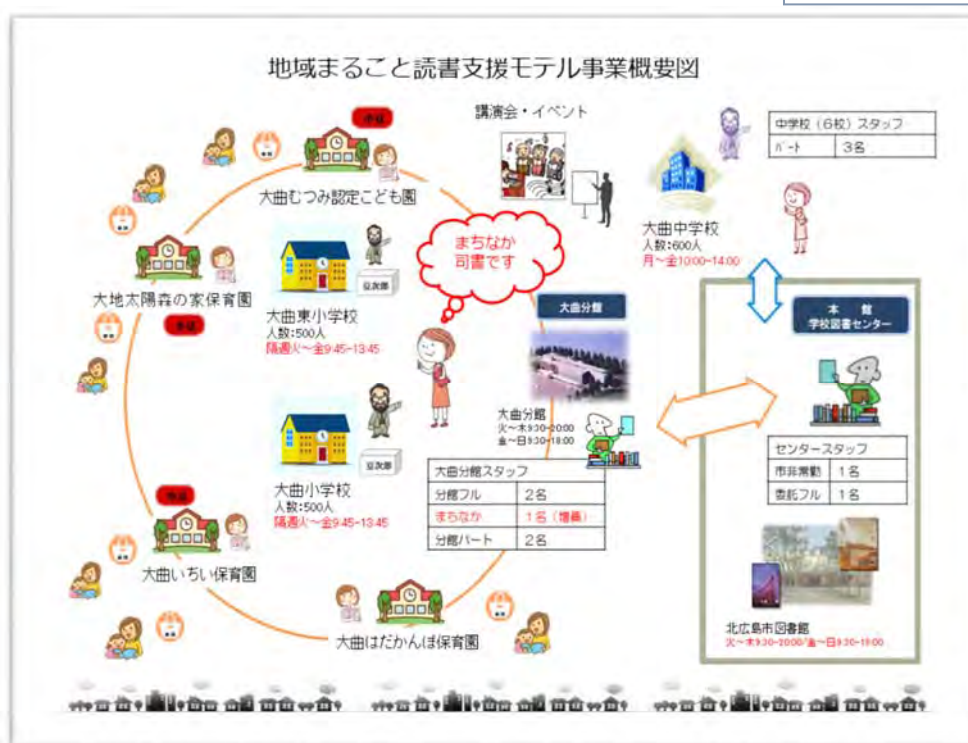
また、すべての中学校で、企画特集展示を行い、生徒の読書意欲喚起に取り組んでいます。

中学校を巡回する司書は、年に 2 回、3 人揃って小学校を訪問し、主に環境整備 (棚整理等) を行っています。

平成 30 年度からは、「地域まるごと読書支援モデル事業」を開始。「まちなか司書」が大曲地区の 2 小学校を隔週火～金で、4 保育施設を週 1 日 3 時間ほど巡回しています。今後、成果を検証し、全市の小学校・保育施設での展開を検討していく考えです。



学校司書の活動風景



選書に児童生徒の声を～学校図書リクエスト

新刊本の情報提供、学校図書館資料の充実のため、図書センターが作成する選書リスト（ポスター）の中から、各学校で選んだ本を、図書センターで購入しています。

リクエスト投票は年 8 回実施、小学校は低・中・高学年ごとに 10 冊、中学校は全学年を対象に 20 冊、選書しています。



ポスター作製まで図書センターで行い、各学校へ送付後は、各学校がポスターの掲示、投票、投票結果の集計、集計結果を図書館へ F A X で送信します。

各学校では、図書館内や近くの廊下等にポスターを掲示し、1 人 1 票ポスターに掲載されている図書に投票してもらい、選ばれた 3 冊の本が学校に届きます。

児童生徒は、自分で選んだ新しい資料がいつ届くのか、心待ちにしています。

訓子府町図書館

〒099-1433

常呂郡訓子府町仲町 42 番地

Tel 0157-47-2700

Fax 0157-47-3015

<http://www.town.kunneppu.hokkaido.jp/library/>

◆蔵書冊数 69,111 冊 (H30. 4. 1 現在)

◆人 口 5,110 人 (H30. 1. 1 現在)

学 校 数 小学校 2 校

中学校 1 校

◆学校連携・支援事業

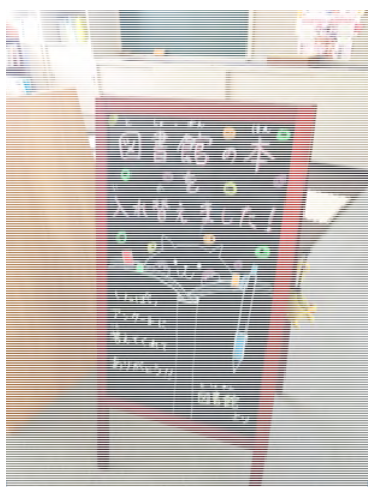
- ・子どもの読書活動推進会議の定期開催（年 2 回）
- ・小学校図書館整備への支援
- ・小学校への図書配置
- ・「子ども読書ノート」事業
- ・町内小・中・高校参加の読書感想文コンクールへの関わり
- ・紙媒体の図書館ニュースの定期発行と、ツイッターを使ったこまめな情報発信

町内小学校の読書推進に関する事業を町図書館が数多く展開

町内の小学校 2 校の学校図書館運営に、町図書館職員が積極的にかかわっています。

居武士小学校には、毎週 150 冊を積んだワゴン車で訪問し、その中から数冊本を紹介しています。この取組を始めてから、児童たちは本をよく手にするようになったと、教職員からの評価を得ています。居武士小学校は、給食室と図書館を兼ねる作りとなっており、児童が日常的に待ち時間や食後の時間に本に親しむ環境となっています。平成 30 年には道立図書館の支援事業を活用し、学校ブックフェスティバルを実施しました。授業公開日に合わせて開催したことにより、地域住民の参加も得られ、前述のリラックスした環境の中、ボランティアと協力して本の楽しさに触れる事業となりました。

訓子府小学校には、町図書館から 1 回 300 冊を年 3 回配本しています。また、平成 29 年度には学校図書館の様態替えに係わる支援も行いました。



訓子府小配本入替告知



アンケート実施と結果発表



図書館・学校それぞれの本を展示

「子ども読書ノート」事業

子どもたちの「読む力」「理解・考える力」「書く力」を伸ばし、確かな学力の向上を目的として開始した事業です。町内の小学生を対象に、最初の1冊は学校から配布。記入を終えたノートを図書館に持参してもらい、図書館で「達成シール」を貼って2冊目を配布しています。

年度末に各学年で年間読書冊数が最多の児童に、マスターカードと記念品を学校から贈呈してもらっています。



子ども読書ノート
ノート1冊に20冊まで書き込めます。
感想は5段階評価
※対象図書にコミック、雑誌を含まない

ピックアップ!

ノートから発展「おすすめカード」

ノート1冊終了ごとに、ノートに記入した中から「おすすめしたい本」を1冊記入する「おすすめカード」を配布。

年度末に、「おすすめカード」年間ランキングを発表します。



図書館NEWS→夏休み前に中・高に配布
新刊案内→中（モノクロ）、小（カラー）に配布

関係機関との連携

図書館が主管課となり、図書館、教育委員会管理課、各小中学校の図書担当教諭で構成する「子どもの読書活動推進会議」を年に2回開催しています。

各学校からの図書館支援に係る要望や、図書館から各学校への支援提案、各学校図書館の整備に関する要望など、関係機関の連携を図っています。

町図書館と学校とのやりとりはこの会議を主として行っており、必要に応じて随時学校からの相談を受けています。

今後、町図書館として学校図書館運営により積極的に関わっていきたいと考えています。

■ 町内小・中・高校全参加の「読書感想文コンクール」 ■

小・中・道立高校4校の各学校図書館主催という形で、30年以上にわたり取組が続いています。作品の募集、優秀作品（各校3点程度）の選出を、各学校が行い、そのうえで「児童生徒読書感想文コンクール審査会議」を開催。図書館は審査会議のコーディネートを担っています。

剣淵町 絵本の館

〒098-0332

上川郡剣淵町緑町 15-3

Tel 0165-34-2624

Fax 0165-34-3345

<http://ehon-yakata.com/>

◆蔵書冊数	72,477 冊 (H30. 4. 1 現在)
◆人 口	3,176 人 (H30. 1. 1 現在)
学校司書配置	実施・小中学校各 1 名 (非常勤) (所属：学校教育)
学 校 数	小学校 1 校 中学校 1 校

◆学校連携・支援事業

- ・学校司書配置
※H28～絵本の館職員兼任で小学校のみ
※H30～学校教育グループ任用の非常勤職員 2 名による小中学校への配置開始
- ・学校図書館とのシステム連携
- ・新一年生への図書館利用案内施設見学 (職場体験)・団体貸出
- ・町図書館司書による、巡回学校図書館運営相談の実施
- ・学校図書館資料の選書 (一部)
- ・「けんぶち絵本の里大賞」に関連した、読書推進事業の実施

小中学校に各 1 名学校司書配置により 児童生徒の読書活動が活発化

平成 28 年度から、絵本の館職員が学校司書を兼任するかたちで小学校のみ派遣をしていましたが、平成 30 年度から、小中学校に各 1 名、専任の学校司書が配置されました。

また、絵本の館と学校図書館のシステムを一元化したことにより、学校を含めた町全体の所蔵状態を確認できるようになり、学校が絵本の館から資料を取り寄せやすくなった、学校司書が学校の端末から絵本の館所蔵資料を確保できるようになったなど、作業効率が改善されました。

学校司書の配置を開始したことにより、学校側には授業で使用したい本の相談をしやすくなり、公共図書館側には、窓口の明確化や学校側からの情報を取りやすくなった等、双方にメリットがありました。

一番大きな変化は、朝読書や学級文庫等、子どもたちに読書習慣が身についてきたことです。

中学校に関しては、学校図書館に常駐の学校司書がいることにより、子どもたちがいつでも自由に図書館を利用できるようになりました。また、顔見知りの学校司書と気軽に話せるようになりリクエストがしやすくなりました。この 2 点が大きな要因となり、4～8 月中の貸出実績が、昨年 of 3 倍以上に伸びています。



小学校での読み聞かせ

学校司書との連携

学校司書は学校教育部局での任用ですが、必要に応じ、電話や来館・訪問等、直接絵本の館職員と学校司書がやり取りをして連携を図っています。

関係者の連絡会議としては、学校の各学期初めころに、学校教育担当者、絵本の館担当者、各学校の司書教諭、学校司書が集まり、近況報告や情報共有を図っています。

絵本の館が学校図書館支援として行っている学校への資料貸出（小学校は絵本、中学校はヤングアダルト中心）も、学校司書と連携して行っています。選本は絵本の館職員か学校司書が行い、実際に学校での貸出状況をみながら、学校司書が返却を行っています。道立図書館からの大量一括貸出の本も含め、定期的に入れ替えを行っています。



小学2年生の職場見学

ピックアップ!

地元コンクールならではの
受賞作家が子どもたちに読み聞かせ

けんぶち絵本の里大賞受賞者により、小学校で特別授業を実施。

また投票期間中に、絵本の館を会場として行われている放課後居場所づくり事業「わくわく放課後タイム」で、絵本を読んで投票してもらうなど、子どもたちが絵本に親しむきっかけづくりにもなっています。

■ けんぶち絵本の里大賞 ■

実行委員会形式で実施。毎年8～9月に投票期間を設け（来館者1人5作品に投票）、10月に開票及び結果発表、2月には受賞作家を招いての授賞式が行われます。

新ひだか町図書館

〒056-0024

日高郡新ひだか町静内山手町 3-1-1

Tel 0146-42-4212

Fax 0146-42-5150

<http://www.shinhidaka-library.jp/>

◆蔵書冊数 114,548 冊 (H30. 4. 1 現在)

◆人 口 23,011 人 (H30. 1. 1 現在)

学校司書配置 実施・複数校兼任 (非常勤)
(所属: 図書館)

学 校 数 小学校 6校

中学校 3校

◆学校連携・支援事業

・学校司書配置 (全小中学校複数校兼任)

・全小中学校図書館の図書台帳整理及び環境整備の実施

・学校図書館へのシステム導入及び資料登録・データ管理 (連携は無し)

・図書館での事業

小・中・高校生の職場体験実習受入

社会科見学受入

団体貸出 (朝読・学級文庫)

・学校での事業

読書関連授業への講師派遣

移動図書館車運行

学校図書台帳精査、図書館環境整備を管理課・学校・図書館が協力して実施

以前から学校向けメニューとして、種々の事業を行っていましたが、学校図書館との連携には至っていませんでした。

長年の運営の中で、学校の図書台帳の記載が実情と合わないケースが散見されたため、教育委員会管理課からの要請を受け、資料整理のノウハウを持つ図書館が、全小中学校図書館の資料整理と図書台帳精査を行う事となりました。その際、将来的に全小中学校への司書派遣を視野に入れ、司書資格をもつ非常勤職員2名を学校司書として任用し、町図書館司書2名と合わせて4名で、平成28年度から2か年をかけて小学校6校、中学校3校の資料整理を行いました。作業を始めるにあたり、管理課から校長・教頭会への提案、連絡会議 (管理課、各学校図書担当者、図書館担当者) を開催、情報の共有と方針の確認を行いました。その後、年2回程度の連絡会議が毎年行われています。

資料整理は、学校の長期休暇期間を利用して行いました。町図書館司書が除籍資料候補を選定するところから始まり、学校側に了承を得たうえで、台帳に登載する本を選定。全校にスタンドアローンのシステムを導入し、登載する本の資料データ作成、バーコード、ラベルの作成・貼付を行いました。貼付作業には、学校職員の手を借りています。

資料整理、図書台帳精査が完了した学校から、順次学校司書の派遣とシステムを使っでの図書館運用を開始し



小学校でのシステム使用指導

全校を町図書館司書と学校司書が訪問しレクチャーを行いました

ました（三石地区は三石分館司書が学校を訪問）。開始にあたり、システムの使用方法のレクチャーを全校で実施しています。

学校司書派遣を開始して

システムの一元化は行っていませんが、学校司書が町図書館を拠点に活動していることから、教員からのリクエストにもこまめに対応でき、学校側の利便性は向上しています。新着図書を受入や本の修理、企画展示など、学校司書が行う事により、担当教諭の事務軽減や、児童生徒の読書環境改善も図られています。

図書館としても、種々の連絡や確認など、学校司書を介して行う事ができるようになりました。また、資料整理作業を通じて、町図書館と学校との良好な関係を築くことができ、その後の活動が円滑になりました。

連絡会議や学校司書を介して、学校向けサービスの周知を繰り返し行う事により、朝読書用図書の貸出を希望する市街地の学校へ、新たに移動図書館車の運行を開始したり、学校での読書関連授業への講師派遣要請も増えるなど、学校が図書館を活用する事例が増えています。



授業1時間を使っての読み聞かせ
読み聞かせ、アニメーション、ブックトークなど、実施する内容の要望調査を行い、各校の日程調整の上、町図書館司書と学校司書が訪問

今後に向けて

学校連携を開始してまだ日が浅く、各小中学校も図書館も手さぐりで進んでいる状態です。

各学校の図書委員会活動の有無やシステムの使用状況等も様々で、学校司書が常駐ではない事から、上手にシステムを使いこなせていない状況もあります。

職場体験には町内の道立高校2校も図書館を活用していますが、それ以上の連携を作れていない状況にもあります。

まだまだ課題が山積していますが、町図書館として児童生徒の読書活動がよりよいものとなるよう、関係機関と連携しながら取組を進めてきたいと考えています。

ピックアップ!

小学生に大人気「一日司書」(本館)

春・秋の読書週間に合わせて、毎年2回行っている大人気事業。いつも定員オーバーになり抽選で体験者を選んでいきます。直接的な学校連携ではありませんが、子どもたちに本の事、図書館の事を知ってもらえる良い機会となっています。

毎月訪問 保育所での読み聞かせ(分館)

三石地区の保育所4か所に、分館担当司書が毎月訪問、読み聞かせと貸出を行っています。同司書が三石地区の学校図書館を訪問しているため、「顔なじみ」感があり、子どもたちの安心感アップにも繋がっています。

苫前町公民館図書室

〒078-3621

苫前郡苫前町字古丹別 187-15

Tel 0164-65-4076

Fax 0164-65-3220

<http://www.town.tomamae.lg.jp/>

◆蔵書冊数 20,518冊 (H30.4.1現在)

◆人口 3,193人 (H30.1.1現在)

学 校 数 小学校 2校

中学校 2校

◆学校連携・支援事業

・公民館図書室での学習
学社融合事業など

・学校での活動

学校ブックフェスティバル

朝読書の読み聞かせ

移動図書室

学級文庫（ブックステーション）



古丹別小学校児童の学習風景

「わかる喜び」 学社融合事業での子どもたちの学び

平成8年度から、学校と地域社会とが協力して子どもの教育活動を行う、「学社融合事業」に取り組んでいます。年間約60事業ある内の一つとして、毎年古丹別小学校の児童が来館し、司書が講師を務めます。計画書を元に打ち合わせを行い、学校側の意向に合わせて内容を組み立てています。約20年継続していますが、教科書の内容等によって、事業内容も変化してきました。

今年度、4年生は「分類を元に本を見つけよう」をテーマに実施し、本の分類や探し方を学び、貸出作業体験も行いました。日本十進分類法の仕組みや、そもそも分類とは何だろうという話の後、ゲーム形式で書名や分類をヒントに図書室内から本を探してもらいます。分類を理解して本を見つけられた時、子どもたちはとても嬉しそうに、本を持ってきてくれます。年に1度の事業なので、どのような成果があるのかを計る事は難しいですが、子どもたちが成長して、大きな図書館を利用した時、思い出して役立つしてくれることを願っています。

学校ブックフェスティバル・学級文庫（ブックステーション事業）の実施

北海道立図書館の市町村活動支援事業「学校ブックフェスティバル」を活用し、平成22年に小学校2校で実施したのが始まりです。今年度は、小学校2校、中学校2校、高校1校からの実施希望がありました。小学校ではボランティアによる読み聞かせも行います。また、道立高校からの協力の要請に応じています。今年度は公民館図書室の資料のみで貸出を行いました。

学級文庫は、学校からの要望に合わせて、各学級20冊の本を貸し出しており、小学校では、年間5回ほど入れ替えを行います。

物語や絵本などのジャンルごとの冊数の他、担任教諭からのリクエストにも対応しており、司書や図書担当教諭が選書を行っています。

市立名寄図書館

〒096-0010

名寄市大通南2丁目5番地

Tel 01654-2-4751

Fax 01654-2-4879

<http://www.city.nayoro.lg.jp/section/library/>

◆蔵書冊数	170,294冊 (H30.4.1現在)
◆人口	27,909人 (H30.1.1現在)
学校司書配置	実施・専任(常勤) (所属:学校教育)
学校数	小学校 8校 中学校 4校

◆学校連携・支援事業

- ・学校司書配置 (H27~)
- ・学校図書館担当者会議の定期開催 (H29~)
- ・学校への団体貸出による朝読書の推進
- ・学校ボランティアの体制整備・充実
- ・司書担当教諭と学校司書の連携
- ・学校図書館資料整備支援 (除籍方針モデルの配布)

学校図書館活動推進のため「情報共有と連携」を主眼に学校担当者会議を設立

平成27年度に小学校への学校司書配置を開始。開始年度は3校から始め、現在は市内全8校への配置がなされています。学校教育課で学校司書を任用し、各校への派遣を行ってききましたが、学校教育課、学校双方に図書館運営に対するノウハウが不足していたことと、学校司書同士の情報共有の機会がなかったことから、学校司書一人一人の判断で各自担当する学校の環境整備や資料整備を進める状況でした。

平成29年度、一部の学校から市立図書館に対し、学校司書を対象とした研修の設定について要望があり、それを受けて市立図書館が各学校司書に対して事前アンケートを実施。現場での課題や困っていることを取りまとめ、学校司書情報交換会を開催しました。これにより、学校司書間の連携が図られ、以後学校司書が自主的に定期的に情報交換を行うきっかけとなりました。

学校図書館担当教諭、学校司書、市立図書館が参加する学校図書館担当者会議を年1回開催し、関係する職員の情報共有を図っています。また市立図書館の学校支援メニューの周知も行っています。



小学校での読み聞かせ

また、同じく年1回、読み聞かせ連絡会議を開催し、市内で活動する読み聞かせ団体と学校図書館関係者による連携を図っています。

ピックアップ!

学校図書館資料管理への支援

「除籍方針」ひな形作成

市立図書館のノウハウを活かし、資料除籍方針のひな形を作成し学校へ提示しました。

蘭越町コミュニティプラザ 花一会 (蘭越町花一会図書館)

〒048-1301

磯谷郡蘭越町 880 番地 9

Tel 0136-57-6085 (FAX 兼)

<http://lib-eye.net/rankoshi/>

◆蔵書冊数 42,717 冊 (H30. 4. 1 現在)

◆人 口 4,767 人 (H30. 1. 1 現在)

学 校 数 小学校 2 校

中学校 1 校

◆学校連携・支援事業

- ・学校図書館とのシステム連携
- ・学校図書館巡回事業 (H24~)
- ・学校図書館センター事業 (H24~)
- ・みんなの本だな事業 (H12~)
- ・学校図書館年間計画の作成
- ・学校図書館活用案内表の作成

「みんなの本だな」から発展 学校図書館巡回事業から始まった学校図書館支援

平成 12 年の「子ども読書年」をきっかけに、「子どもたちの一番身近な教室に、子どもたちが読みたい本を」との思いから、小学校で「みんなの本だな」事業が始まりました。授業時間の中で、子どもたち自らが読みたい本を選んで学級文庫をつくります。合わせて、読書に親しむきっかけとなるようプログラムを作成し、各学校で、読み聞かせやブックトークを、図書館職員とボランティアが協力して実施しています。(中学校は「自分で作る学級文庫」)

公民館図書室時代から始めたこの事業は、クラス文庫を充実させるものでしたが、学校図書館に対する支援の始まりは、平成 24 年度から開始した学校図書館巡回事業です。平成 19 年 9 月に公民館図書室から、現花一会に移転。これまで以上に児童サービスに力を入れたいと考え、教員を対象に学校と花一会の連携に関するアンケート調査を行い、学校側の期待が大きい事を確認し、事業を開始しました。事業内容は、花一会の学校担当司書が各学校を巡回するものです。学習指導、読書指導、教員、居心地の良い場づくりの 4 点に対するサポートを目的としています。

当町では司書教諭の発令もなく、学校司書もいないため、花一会の学校担当司書が両方の職務を兼ねるような支援を行っています。資料提供にとどまらず、どう利用するかを出前授業を行うことから始めました。

現在は花一会の司書 2 名 (正職・嘱託) が、小中合わせて 3 校を担当しています。

学校との情報共有を図るため、年 10 回ほど「学校図書館巡回ニュース」を発行し、各学校・学年で行った支援内容を具体的にお知らせしています。



みんなの本だな ブックトーク
「ブックトーク」の持つ、子どもと本を結びつける力の強さを感じる時間



みんなの本だな 本選び時間
選び終わっていますが、好きな本を読みながらくつろいでいます

町図書館が一元的に資料管理

「学校図書館図書センター事業」とは、各学校の資料管理を花一会が一元的に行うものです。

巡回事業開始年平成24年9月、各小学校にシステムを導入、花一会のシステムと連携しました。中学校はシステム更新に合わせ、平成30年8月から連携を開始しました。これにより学校間の相互貸借が容易になったことはもちろん、所蔵状況も花一会で全て把握できるようになりました。

「学校図書館図書センター事業」

各学校図書館資料の構成、授業や児童生徒の利用状況、花一会や他校との兼ね合いなど総合的に判断し、購入資料の選定、購入手続き、データ入力、装備、新着図書としての展示まで、花一会が一貫して関わっています。

職員用と児童生徒用に2種類の新着図書案内を作成し配布しています。

学校図書館の年間計画・資料活用まで徹底サポート

学校図書館年間計画は、小学校の担当者から案を示してほしいと要望されたことから、学校図書館関係書籍を参考に、平成27年度に作成しました。(作成の過程で各小学校の了解を得ています)

各学校で実践する中で明らかになった改善点を毎年更新して現在に至っています。

小学校の学校図書館資料の活用についても年間計画を作成し、年度末の学校図書館連絡会議の場で全体で確認してから各教諭に配布しています。また、毎週の授業時間割を入手し、授業の進度に合わせて、FAXで利用案内をしています。

担当教諭と協働で、単元に合わせたブックトーク等の実施や、調べ学習支援として図鑑・参考図書の使い方等、各学年の指導内容に沿った連携授業を行っています。

平成29年度は小学校2校で55時間。中学校は3時間の授業時間数でした。

授業のための貸出冊数は、事業開始前と比べて小学校で10倍以上(2,045冊)、中学校で400倍以上(424冊)と、児童生徒数の減少に関わらず利用が大幅に増えています。

ピックアップ!

学校と図書館司書が共に創り出す体験授業

教諭が授業で子どもたちにどのような力を付けたいのかを司書が理解し、児童生徒の成長に見合った資料をよく吟味して用意しています。また、資料を貸すのみにとどまらず、実際の授業の様子を見ることも選書力に繋がると考え、実践しています。



調べ学習支援

参考図書(百科事典)の使い方(小学3年生)学年ごとに様々なメニューを行っています。